

平素から組合員・利用者の皆さまには格別のご愛顧を賜り心よりお礼申し上げます。

この度、2020年度の経営内容をご報告するにあたり、「ディスクロージャー誌」を制作いたしました。ぜひご一読いただきたくお願い申し上げます。

さて、2020年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動が大幅に制限され急激な経済収縮となりました。コロナ禍の影響は、働き方や生活様式など広く社会環境にも変化をもたらし、農業においても、緊急事態宣言下の対外活動の自粛に伴い、学校給食向け農産物や花卉、観光農業などを中心に大きな影響を受けました。感染が一旦収束に向かった年半ば以降は持ち直しの動きがみられたものの、冬季を迎えて感染が再拡大するなど先行きは依然として不透明な状況です。

農業を取り巻く環境では、2020年3月、政府は食料自給率の向上と食料安全保障の確立を基本方針とする、新たな「食料・農業・農村基本計画」を閣議決定し、家族・小規模経営など多様な経営体を評価するとともに、農業の多面的機能への期待が示されました。一方で、生産緑地の2022年問題を目前に控え、農地や農業従事者の減少が懸念される中、生産緑地制度の相談対応や理解促進へ向けた取り組みが引き続き求められています。

こうした状況の中、JAはだのでは、変化する社会環境への対応をはかるとともに、目標とする農業者の所得増大や農業生産の拡大、地域の活性化に資するべく、第五次中期経営計画（2019年度～2021年度）中間年度の実践に取り組みました。

組織運営では、JAの組織基盤の拡充・強化をはかるため、組合員の意思反映や運営参画について検討をすすめました。また、コロナ禍により多くの活動が制限される中、地域とJAをつなぐ情報発信の強化につとめました。

営農指導事業では、地域農業活性化に向けた生産振興や農産物の有利販売に取り組みました。また、営農指導員の育成強化に向けた階層別研修体系の導入や、農業経営支援体制の構築に向けたシステムの導入をすすめました。さらに、秦野市と連携し、一昨年台風被害やコロナ禍により影響を受けた農家への経営支援のほか、観光農業振興、鳥獣被害対策に取り組みました。販売事業では、「はだのじばさんず」をリニューアルし、地産地消の拠点として一層の充実をはかるとともに、販売戦略の高度化をはかるため、販売部門の一元化に向けた検討や買取販売システムの構築に取り組みました。また、経済事業では、より安価な生産資材の供給とコスト管理に基づいた営農指導により、トータル生産コストの削減に取り組みました。さらに、金融共済事業では地域に根ざした金融機関として組合員・利用者から信頼される店舗づくりにつとめました。

経営管理では、経営収支の安定確保に向けた事業構造の再構築について、プロジェクトチームによる検討をすすめました。また、不祥事未然防止に向けたコンプライアンス態勢の強化や労働環境の整備に取り組みました。

JAはだのでは、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、さらなる地域農業振興と豊かで暮らしやすい地域社会づくりに取り組んでまいります。

皆さまの一層の参加、参画および利用結集をお願い申し上げます。

秦野市農業協同組合

代表理事組合長 宮永 均